

# いわき農林水産ニュース

ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」

新生運動ニュース

3月号 発行 平成29年3月23日

## 目次

・いわき地域産業6次化ネットワーク交流会	P1
・いわき地方有害鳥獣被害防止対策研修会	P2
・いわき農業普及普及推進懇談会	P2～3
・I W A K I 里山交流フェスタ	P3
・いわき地方山火事防止連絡協議会	P4
・いわき市森林組合林業コンクールの表彰式	P4
・県産魚介類を用いた交流会	P5
・フレッシュ農業ガイド講座	P5～6
・農林水産業再生セミナー及び ステップアップ講座経営セミナー	P6
・第2回クラスター分科会	P7
・津波被害からの営農再開	P7
・山菜の出荷等の取り扱いについて	P8
・多収品種「ふくひびき」について	P8～9
・農林水産物モニタリング調査結果	P9～10
・6次化商品紹介	P11

## いわき地域産業6次化ネットワーク交流会を開催しました

2月27日（月）、県いわき合同庁舎において、「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催しました。ネットワーク交流会は、地域産業6次化をさらに推進することを目的に、講演会と求評会の2部構成で開催し、市内の事業者や行政関係者等、40名が参加しました。

第1部では、電子部品事業からフードビジネス事業に挑戦し、高級スイーツのヒット商品を数多く生み出されている（株）向山製作所代表取締役の織田金也氏に「逆境を糧に電子部品工場のフードビジネスへの挑戦」と題して講演をしていただきました。

講演では、電子事業から食品事業への参入経緯、リーマンショックや東日本大震災からの立て直し、県産品を用いた6次化商品など、実際の経験に基づく実践的な話となり、多くの参加者にとって6次化に取り組むうえで参考となる内容となりました。

また、第2部では、6次化商品の求評会が開催され、市内の事業者がそれぞれ持参した6次化商品の試食の後、織田氏や参加者から開発や販売方法等についてのアドバイスをいただきました。

講演会のアンケート結果では、参加者から「織田氏の熱意に感動した」、「商品への思い、こだわり、信念の強さが今の成功につながっていると感じた」、「本当に良い商品なら、販売開拓する努力を継続することによって売れることが分かった」等の声があり、好評のうちに終了しました。（企画部）



（第1部の講演会）



（第2部求評会 織田氏のアドバイス）

## 「いわき地方有害鳥獣被害防止対策研修会」を開催しました

2月15日（水）、JA福島さくらいわき梨選果場において、鳥獣被害防止対策に取り組んでいる地区の代表者を対象に、イノシシによる農作物被害対策の研修会を開催しました。

講師の東北野生動物保護管理センターの鈴木淳氏から、イノシシの生態と電気柵設置のポイントを始め、捕獲だけでなく、正しい生態を知ったうえで、生息環境管理や侵入防止柵による被害防除を組み合わせた総合的な被害防止対策の重要性を講演いただきました。また、いわき地方振興局県民部からは、狩猟制度や免許等に関する情報提供が行われました。

さらに、現地研修では、小川町田頭地区の電気柵設置状況を参加者全員で確認し、イノシシ被害の発生状況について地元区長から説明を受けました。正しい電気柵の設置方法や箱ワナによる捕獲ポイント、耕作放棄地の除草など、適正管理の重要性について情報を共有しました。

参加者からは、電気柵や箱ワナの設置に併せて、イノシシの身を隠す場所をなくすよう草刈り等を行う「遊休農地対策」が必要であるとの意見が多く寄せられました。引き続き、生産者自らが集落の鳥獣被害対策を進められる環境づくりを進めていきます。（農業振興普及部）



（イノシシの生態についての講演）



（現地で正しい電気柵の設置方法を確認）

## 平成28年度第2回いわき農業普及推進懇談会を開催しました



（普及推進懇談会の様子）

2月20日（月）、県いわき合同庁舎において、「いわき農業普及推進懇談会」を開催し、懇談会委員7名、県農地中間管理機構地域マネージャー、いわき農林事務所職員を含めた21名が出席しました。この懇談会は、普及活動の取組について、委員の方々から意見をいただき、効率的な普及活動につなげることを目的としています。

初めに、いわき農林事務所から平成28年度普及指導活動実績を報告し、その後、意見交換を行いました。委員からは、酒造好適米「山田錦」の収量や品質についての質問のほか、市営牧野再生の取組紹介、生産者の6次化の取組で開発された中華まんの商品化の経過、りんどうの新規作付けの取組についての質問が寄せられました。また、いわき市のブラン



(「Premium Iwaki Laiki」等米の試食)

ド米である「Premium Iwaki Laiki」が発売されたことから、他県の有名ブランド米とともに試食を行い、「Premium Iwaki Laiki」の「粒が大きい」、「粘りがあっておいしい」等の意見が寄せられました。

次に、平成29年度の普及指導計画(案)について説明し、意見交換を行いました。JA全農からは、「天のつぶ」の食味向上に向け、専用肥料の展示ほを全県に設置する旨の説明がありました。今回いただいた意見等については、より効果的な活動ができるよう今後の普及指導活動に反映させていきます。(農業振興普及部)

## 「IWAKI 里山交流フェスタ」を開催しました



(丸太切り体験)

2月18日(土)、いわき市の小名浜さんかく倉庫において、「IWAKI 里山交流フェスタ」を開催しました。

当日は、三和町ふれあい市場や田人町貝泊地区の山ぼうしの家直売所による地元産の食品・農産加工品、川前町の(株)日本きじ牧場のきじおこわ、三和町のお母さんたちが作る地元で伝わる綿入れ半纏「おじょんこ」等が販売され盛況でした。

また、ステージイベントとしていわき市立三和小学校による三和太鼓の演奏、田人地域振興協議会による井戸沢断層解説会等、体験コーナーとしてはいわき市の伝統工芸品である遠野和紙の紙漉き体験、NPO法人いわきの森に親しむ会による丸太切り体験などが行われ、小さなお子様からお年寄りまで多くの方がいわきの里山の魅力を堪能していました。

(いわき地方振興局)



(お客さんで賑わう物販ブース)



(三和小学校の生徒による三和太鼓の演奏)

## いわき地方山火事防止連絡協議会を開催しました

2月20日（月）、県いわき合同庁舎において、いわき地方山火事防止連絡協議会を開催しました。この協議会は、森林資源の維持と自然環境の保全を図るため、関係機関や団体が連携して、市民に対して山火事防止の啓発を実施していくことを目的に開催しています。

会議では、山火事防止強調月間を春期は3月1日から5月10日まで、秋期は11月1日から12月20日までと設定し、のぼり旗の設置や、入山者にチラシを配布する等の広報活動を実施していくことを確認しました。

これからの季節は、空気が乾燥し火災が発生しやすい時期となり、山に入る機会が増えてくることから、山では「火を使わない」ことを心がけて、山火事を起こさないよう十分注意してください。



（いわき地方山火事防止連絡協議会の様子）



（山火事注意のチラシ）

（森林林業部）

## いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました

2月25日（土）、いわき市森林組合第47回総代会席上において、いわき市森林組合林業コンクールの表彰式が行われました。このコンクールは、森林組合員の林業技術の向上と林業経営の改善を図り、地域の林業に資することを目的に毎年開催されています。今年度は8点の応募があり、いわき農林事務所長賞は造林技術部門において熊谷菊松氏、間伐技術部門において阿部金子氏に授与されました。

いわき管内の人工林は高齢級化が進み、整備が必要な森林も多いことから、今回受賞された2名の方には、これを励みにさらに森林整備に取り組んでいただくとともに、このコンクールが森林組合員の皆さんの森林づくりの契機となり、いわき市の森林整備が促進されることを期待します。（森林林業部）



（造林技術部門 熊谷菊松氏所有の森林）



（間伐技術部門 阿部金子氏所有の森林）

## 豊間災害公営住宅で県産魚介類を用いた交流会を実施しました

2月23日（木）、豊間地区災害公営住宅において、いわき市漁業協同組合の主催により、東日本大震災で被災した豊間地区の住民を対象とした交流会が開催されました。「福島県の漁業を知って食べよう」と銘打たれた今回の交流会では、いわき市漁業協同組合と水産事務所の担当者が講師を務め、福島県の漁業の現状と魚介類の安全性について説明しながら、試験操業で漁獲された魚介類を使った漁師料理をふるまうことで、地域間住民の交流を促進するとともに、沿岸漁業の実情と県産魚介類に対する正しい理解の醸成を図りました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、豊間地区災害公営住宅の住民に加え、近隣の豊間地区の65名が参加しました。調理はいわき市漁協沼之内支所の女性部員6名が担当し、ヒラメの唐揚げとサンマのつみれ汁がふるまわれました。ヒラメは前日の試験操業で水揚げされたいわき産を使い、サンマのつみれは県漁連から購入したものを利用しました。参加された方々の中には久しぶりに地元の魚を食べる方も多く、新鮮なヒラメや絶妙な味付けのつみれ汁に大変喜んでいました。

交流会を主催した漁協女性部では、「各地でPRイベントに参加してきたが、地元の住民を対象としたPRの機会は少なかったので、こうした取組を増やしていきたい。」と話しており、地元住民に対するPRも重要であることを改めて感じました。（水産事務所）



（女性部長による料理メニューの紹介）



（試験操業に関する説明）

## フレッシュ農業ガイド講座を開催しました



（鯨岡氏との意見交換の様子）

3月2日（木）、福島県立磐城農業高等学校園芸科1・2年生を対象にフレッシュ農業ガイド講座を開催し、生徒74名がいわき市内の農業法人を訪問して意見交換を行いました。

この講座は、農業高校の生徒が地元の生産者と直接交流することにより、農業に対する興味や関心を高め、就農意欲を向上させることを目的として実施しています。震災以降、開催が見送られていましたが、今年度から再開したものです。



(トマトの収穫体験の様子)

現地視察先の(株)アグリパークいわきでは、代表取締役の鯨岡千春氏から、経営状況やイチゴの栽培、(有)とまとランドいわきでは、農場管理担当者の石橋洋典氏から、経営状況や自身の就農の経緯について説明を受けました。また、各視察先ではイチゴ、トマトの収穫体験も行いました。

各視察先での意見交換会では、生徒から栽培施設や美味しいイチゴの見分け方、栽培しているトマト品種の違い、従業員の休暇等、様々な質問や意見が出されました。

講座終了後に生徒に対して実施したアンケート調査では、「農業に対する興味が沸いた」、「イメージが向上した」といった意見がありました。来年度の講座では、今回出された意見を参考に、更に充実した講座にしていきます。  
(農業振興普及部)

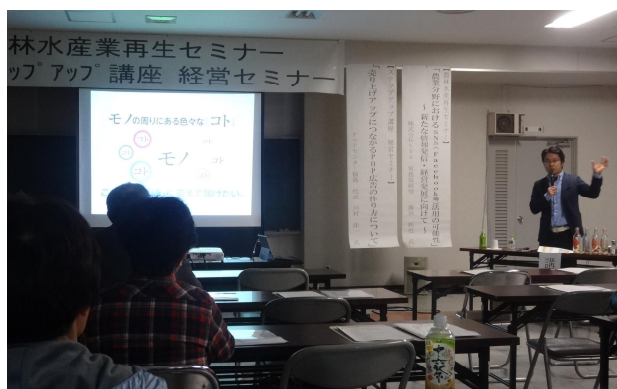
### 農林水産業再生セミナー及びステップアップ講座経営セミナーを合同開催しました

3月3日(金)、県いわき合同庁舎において、情報発信手法等に関する知識向上とPOP広告の作成手法の習得を図るセミナーを開催し、市内の農業関係者等延べ33名が参加しました。このセミナーは、営農活動や農産物の魅力などのPR方法を学ぶことにより、販売力の強化に繋げることが目的で、2部構成で開催しました。

農林水産業再生セミナーにおいては、(株)GNSの常務取締役である廣田拓也氏より、SNSを活用した商品PRや情報拡散に関する事例及び活用のポイントについて、質疑応答を交えながら講演をいただきました。また、経営セミナーにおいては、POPセンター福島の代表である川村洋一氏より、売り場での商品PRに重要なキャッチコピーやPOP広告の作り方について、実習を交え講義をいただきました。

参加者からは、「経営に活かしたい」、「SNSそのものの使い方をもっと知りたい」との意見が寄せられました。今後も、地域農業の現状や課題に合わせたセミナーを開催していきます。

(企画部・農業振興普及部)



(農林水産業再生セミナー)



(ステップアップ講座 経営セミナー)

## 第2回クラスター分科会を開催しました

3月7日（火）、県いわき合同庁舎において、平成28年度地域特産品創出事業第2回クラスター分科会を開催しました。

今回は、市内の生産者、製造・販売業者、いわき農林事務所など10名が参加し、いわき市産の梨を乾燥させたドライフルーツやネギを使用し、製造・販売業者が開発・改良した6次化商品7品の試食や意見交換、2月7日（火）に実施したモニター調査の結果報告を行いました。

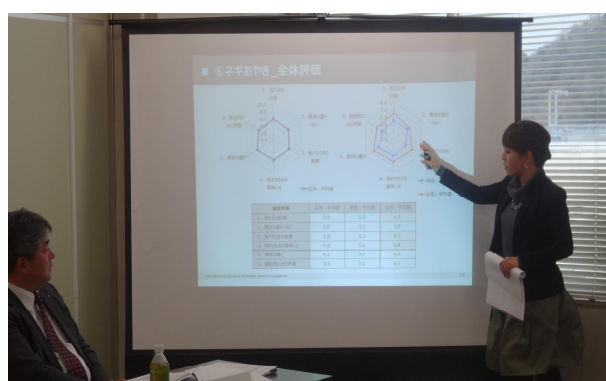
意見交換では、「乾燥梨はこれから伸びる商品ではないか」、「ネギを大量消費してもらえる加工方法を考える必要がある」といった意見がありました。

今回ブラッシュアップされた商品の一部については、今後、店頭での販売を目指していきます。

（企画部）



（クラスター分科会の様子）



（モニター調査結果の説明）

## 津波被害からの営農再開

東日本大震災により津波被害を受けた農地について、ほ場の区画を大きくするなど農作業の効率化を図るため、平成25年度から3箇所約253haで、ほ場整備事業を実施しています。

工事が完了したほ場では、平成27年春から順次作付を開始し、今春までに約210ha、全体の約83%で作付ができるようになりました。平成30年春には残りの農地でも作付ができるよう工事を進めています。

作付を始めた農家からは、工事前より作業が3倍以上早くできるようになり、更に規模拡大ができるとの喜びの声が寄せられています。

今後は、早期に完了できるよう残りの工事を実施していきます。

（農村整備部）



（夏井地区平成28年作付状況）



（錦・関田地区平成29年3月工事完了後）

## 山菜の出荷等の取り扱いについて

これから山菜の発生・採取時期となりますが、採取者や直売所担当者の皆様におかれましては、次の点に留意するようお願いいたします。

- 1 現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は以下のとおりです。これらの品目は地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。

制限、自粛別	山菜の品目
出荷制限	たけのこ、たらのめ（野生）、ぜんまい、わらび、こしあぶら
出荷自粛	さんしょう（野生）

- 2 出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により「基準値」以下であっても出荷・販売することはできません。

- 3 出荷制限等品目以外の山菜について、県では市町村単位で緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、今シーズンのモニタリング検査により安全性が確認されてから出荷・販売するようお願いいたします。

県で実施しているモニタリング検査結果については、新聞や県のHP「ふくしま新発売。」などで公表していますので確認してください。

- 4 安全・安心な山菜を消費者に届けるため、出荷品には市町村単位での正しい産地表示をお願いいたします。（例 「〇〇（野生）（いわき市産）」等） （森林林業部）

## 飼料用米には多収品種「ふくひびき」が有利です

飼料用米の作付けは、国等からの助成金で収入増が見通せることから、農業者が所得向上を図るうえで有効な取り組みです。飼料用米の選定にあたっては、多収品種「ふくひびき」に注目しましょう。

- ここが有利「ふくひびき」
  - ・安定した多収性を示し、玄米収量が「コシヒカリ」より約3割多収です。
  - ・「ふくひびき」は多収品種のため、作付面積に応じて、1万2千円（定額）／10aが助成されます。
  - ・「ふくひびき」は、主食用米で使用する機械設備がそのまま使用（清掃は必要）できるため、新たな投資をせずに取り組みます。 （農業振興普及部）

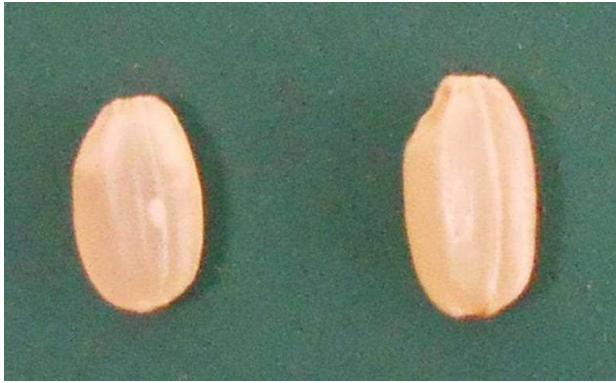
（表）いわき管内調査ほの生育状況及び収量調査結果

品種	移植日 月・日	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	粗玄米重 kg/10a
ふくひびき（平坦部）	6月4日	8月10日	9月25日	69.4	336	627
ふくひびき（中山間部）	5月21日	8月3日	9月10日	69.1	326	568

※植え付け数（両調査ほ共に56.4株/坪、条間30cm×株間19.5cm）

施肥N（平坦部：基肥7.7+追肥2、中山間部：基肥6+追肥2（kg/10a））





(左：コシヒカリ 右：ふくひびき)

## いわき地方の農林水産物モニタリング調査結果

福島県が行った、いわき地方の2月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果をお知らせします。

検査した6品目17検体すべてにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表1)のとおりです。

2月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表2)のとおりです。

(企画部)

(表1) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

菌床しいたけ(施設)4、菌床なめこ(施設)1、ふきのとう(野生)3、牛肉4、豚肉1、原乳4

(表2) 出荷制限および出荷自粛品目(2月末現在)

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	無
	果物	無
	穀類	無
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	畜産物	無
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

## □海産魚介類の検査結果

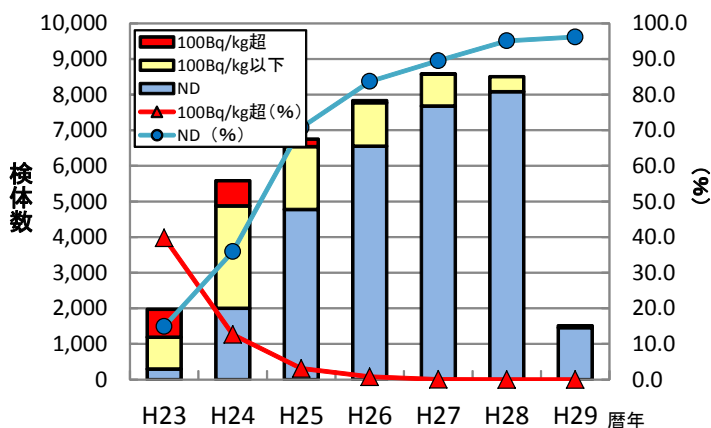
福島県沖（全県）で採取された海産魚介類から放射性セシウムが検出される割合は、時間の経過とともに着実に低下しています。平成29年2月の水産物モニタリング検査では、827検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値(100Bq/kg)を超えたものではありませんでした。

海産魚介類では平成27年4月以降、全県で基準値を超えたものではありません。平成28年5月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合が95%を超え、平成29年2月はND割合が96.2%となっています。（水産事務所）

（表・グラフ）平成23年以降のモニタリング検体数と放射能セシウム検出の割合

年		100Bq/kg 超	100Bq/kg 以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合 (%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合 (%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合 (%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合 (%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合 (%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	420	8,082	8,502
	割合 (%)	0.00	4.9	95.1	100.0
H29	検体数	0	58	1,455	1,513
	割合 (%)	0.00	3.8	96.2	100.0

H29.2.28現在

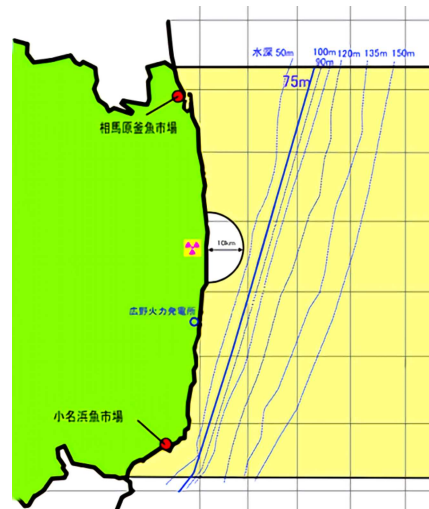


## □試験操業の状況

2月28日（火）に開催された福島県漁業協同組合長会で底びき網漁業の操業海域は、水深90m以深から75m以深に拡大され、より浅海域の操業が可能となりました。

また、福島第一原発20km圏内の操業海域の拡大（案）が承認され、福島第一原子力発電所から半径10～20kmの海域が新たに試験操業の対象海域に追加されました。3月中旬から開始されるコウナゴ船びき網漁で、この漁場が利用される見込みです。

（図）試験操業海域の概略図



（水産事務所）

ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します



鈴木製麺（株）  
鈴木千里社長

鈴木製麺（株）では、いわき市産のマコモタケや県産の「なつはぜ」を使用した麺類を販売しています。麺の製造に欠かせない小麦粉は、全て厳選した国産を使用しているのがこだわりのポイントです。その他、エゴマうどん、エゴマそうめんといった6次化商品や、茹で麺、乾麺といった様々な商品を販売しており、鈴木製麺（株）の直売所や市内のスーパー（6次化商品は除く）でお買い求めいただけます。是非ご賞味ください。



なつはぜうどん  
内容量：200g  
希望小売価格：400円（税抜）  
県内で栽培された「なつはぜ」（和製ブルーベリー）を加え練り上げた麺です。（なつはぜそうめんもあります。）



マコモそうめん  
内容量：200g  
希望小売価格：400円（税抜）  
彩花園（いわき市渡辺町・遠藤菊男氏）が栽培したマコモ若葉粉末を加え練り込みました。マコモタケの香りが楽しめる麺です。（マコモうどんもあります。）

お問い合わせ

鈴木製麺株式会社

いわき市四倉町西二丁目6番地の3  
TEL.0246-32-2703 FAX.0246-32-7308  
<http://suzukiseimen.co.jp/>

SUNSHINE IWAKI  
サンシャイン いわき!  
笑顔あふれる  
農林業を  
めざして!!  
福島県いわき農林事務所（平成23年度キャッチフレーズ）

© 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース